

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H04386

研究課題名(和文) 移住性取引再考 グローバル化の苦痛を軽減するための調査研究

研究課題名(英文) Rethinking the Migrant Sex Trade: Reducing the Harm from Globalisation

研究代表者

青山 薫 (Aoyama, Kaoru)

神戸大学・国際文化学研究所・教授

研究者番号：70536581

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：国境を越える性取引の当事者に対する聞き取りとネットワーク分析から、次のことが明らかになった。当事者の経験は多様であり受け入れ国によって著しく異なる。受入国内でも、とくに出身国とエスニシティ、滞在資格によって著しく異なる。ネットワークの質が移民の脆弱性に影響する。1990年代に比べ、パレルモ議定書における人身取引の手段と目的を明確に示す例は少数であった。トランスジェンダーの当事者は、シスジェンダー当事者より不利な立場にある。国境を越える性取引をより安全にするには、警察・入管をふくむ部外者が、危害軽減とコミュニティアプローチからなる倫理的アプローチを採用することが必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、国境を越える人の移動の中でもとりわけ政治的規範的な議論が後を絶たない性取引を伴う移動について、グローバル化が促進した中心的な課題として再考した。この現象に対して現在まで禁止・加害者処罰・被害者救済に偏る調査研究と法・政策を問い直し、「犯罪」にも「被害」にも終始はしない当事者の経験をあらためて明らかにした。そして、現象の解明にとどまらず、現在の国家法・政策が取りこぼしてきた、実際のかつ人道的な対策を探求し、当事者の不利益・苦痛・スティグマを軽減する手立てを提案するに至った。また、聞き取り記録とネットワーク分析を組み合わせた研究方法にも独特の学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：The most significant findings from narrative and network interpretations of the agents/migrants' experiences of transborder sex trade are as follows: 1) diversity of the migrants' trajectories depending on host countries, 2) within one country, they are different especially according to their country of origin, ethnicity and visa status, 3) qualities of networks determine the migrants' vulnerability and 4) compared to the 1990s, there were currently scarce indications of typical means or purposes of trafficking, 5) transgender migrants are more vulnerable than their cis counterpart and, finally, 6) to make transborder sex trade safer, outsiders including the police and migration control would need to take 'ethical approach' consisting of harm reduction and community approach.

研究分野：社会学

キーワード：国境を越える人の移動 性風俗産業 セックスワーク 人身取引 聞き取り ネットワーク 国際共同研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

国境を越える人の移動を伴う性労働は、多くの国で犯罪化されている。これに携わる人は国家の法的保護を受けることが難しく、搾取と暴力の危険性が高い非正規移民であることが多い。移住性労働は、同時に、性暴力の問題、ジェンダー不平等の問題としてのみ、あるいは不本意にせよ性規範を逸脱したごく少数者の、世界にとっては周縁的問題と理解されがちである。しかし移住性労働は、格差を拡大し続けるグローバル化の不利益を被る人々が、同じグローバル化の別の側面を利用して不利益とそれに伴う苦痛からの脱出を図る数少ない道の一つでもある。つまり移住性労働は、現代世界において、貧窮からの脱出、人生の機会を拡大する願望、移動、労働、自己決定、幸福追求などの権利を誰が誰にどう安全に保証するかに関わっている。換言すれば、実はこの問題は、グローバルな正義とは何か、公正とは何か、どうしたら実現できるのかを問う、現代社会における中心的な問題なのである。

ところで、人が移動させられ性取引などに利用され搾取と暴力を受ける場合は、これを「人身取引」として禁止し、被害者を保護するグローバルな法・政策的取り組みが存在する。越境組織犯罪防止条約を補完する人身取引禁止議定書がその国際法的根拠だが、この範疇で法執行機関に被害者として認定されれば、性取引に携わる人も、条件付きで移住先での滞在を認められるなど一定の法的保護を受けることができる。国家・国際法・政策の枠組みの中では、誰が誰に何をどう安全に保証するかはあくまでも国家の裁量に任されていることがよく解る。そこでは、性「労働者」が対照的に犯罪化されていることもよく解る。もっとありていに言えば、多少なりとも自発的に人生の機会拡大したい、労働をしたい、など上記の諸権利の主張にあたるのが表面化すれば、それが移住性労働である限り、その人は同じ国家の裁量によって犯罪者として扱われるのである。

しかし、グローバル化の不利益を被り苦痛を感じている人々は、そこから脱出するための自発性を手放さないうえに、それが反人身取引の法・政策が人身取引を止められていない一つの大きな理由ではないか、と本研究は仮定した。間接的にでも、少しでも、長い過程のどこでも、強制性が認められれば「人身取引」とするのが議定書の趣旨とはいえ、強制された被害者というよりも、自発的な何者かであるという自己認識あるいは客観的状況がどこかにあって、結果的に、労働として性取引に携わっている人はいなくなると、というのが現状ではないだろうか。とはいえ、自発性でこの人たちに対する法の埒外の強制や搾取や暴力がなくなるわけではない。人身取引と性労働の区別が容易につかないゆえんである。そして、不利益を被っているからこそ、犯罪化されているからこそその当事者へのスティグマもなくなってはいない。

以上から言えることは、現行の国家を基盤とする法・政策が、グローバル化の不利益と苦痛から脱出しようとしている人々を犯罪者か被害者かの二分法で区別している限り、グローバルな正義も公正も実現からは遠いだろう、ということであった。

2. 研究の目的

では何が正義や公正に私たちを近づけるのか。本研究は、反人身取引法・政策を批判的に検討し、かれらを移動させるネットワークを分析し、国境を越える性取引に携る個々人の視座と経験を質的実証調査を通して再評価することによって、実際的かつ人道的なグローバル正義・公正への道を探った。

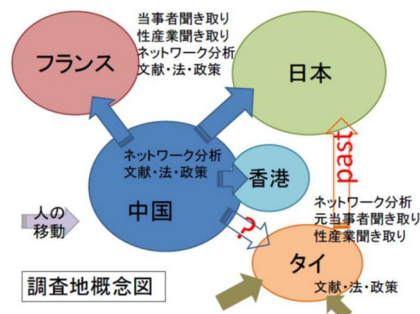
本研究は、まず、この現象に対して現在まで禁止・処罰・救済に偏る調査研究と法・政策を問い直し、当事者の視座を重視する実証研究によって、「犯罪」にも「被害」にも終始はしない当事者の経験を明らかにした。そして、性取引という個人的な経験の中にもこそグローバルな課題を乗り越える契機が見出せるのではないかと考え、現象の解明にとどまらず、現在の国家を基盤にした法・政策の枠組みが取りこぼしてきた、この課題に対する実際的かつ人道的な対策を探求した。本研究の最終的な目標は、当事者の不利益・苦痛・スティグマを軽減するために何が必要かを明らかにすることであった。

3. 研究の方法

そのため本研究は、国境を越える移動を伴う性労働および人身取引に関する実証的先行研究のレビュー、対象各国の法・政策の批判的研究、人身取引対策等の当事者および性産業の現場への影響についての参与観察、当事者への詳細な聞き取り(in-depth interview)調査、

性労働の仲介者/人身取引トラフィッカーを軸とするネットワーク分析を行った。実証調査は、課題が国境横断的かつ分野横断的であることから、代表者と分担者が培ってきた移住、性労働、人身取引、ジェンダー/セクシュアリティおよび社会理論・調査方法論にわたる研究関係を駆使し、協力研究者および関係者団体・個人の協力を得て行った。調査地は、日本のほか、かつて日

本における送り出し地の代表であり過去の経験の参照点にふさわしいタイ、やはり代表的な受け入れ地であるフランスを取り上げる。開始当初は、現在送り出し地の代表であると思われる中国と、大陸部から移動する人の受け入れ地として参照に値する香港も対象地に含めていたが、政治情勢により入国と調査が不可能になり出す断念した。その代わりに、台湾国立中山大学の専門家協力者を得て、中国出身者についての研究を行った。日本とフランスで対象となる当事者は、当初の予想通り中国大陸部の出身者であったが、最終的には中国出身者に限らず聞き取り相手の範囲を広げた。



4. 研究成果

フランス 24 人、タイ 29 人、日本 8 人(合計 61 人)の聞き取りとネットワーク分析によって、グローバル性取引を人身取引の側面だけでなく性労働の側面からも検証した本研究の結果、次のことが明らかになった。

移住セックスワーク(以下、SW)は多様であるが、受け入れ国によって当事者の状況は著しく異なる。また、受入国内の集団間でも、とくに出身国とエスニシティおよび滞在資格によって著しく異なる。ネットワークの質が移民の脆弱性に影響する。1990 年代に比べて、パレルモ議定書における人身取引の手段(詐欺、強制、暴力、脆弱性に乘ずるなど)と目的(搾取)を明確に示す例は少数であった。タイは 2000 年代初頭までと異なり、性取引の受け入れ国になった。タイ出身者では、やはり 1990 年代に報道された事例のような過酷な人身取引を経験した人はいなかった。これら 5 点をより詳しく理解する鍵が、次の 6 項目である。

1) NGO など市民団体との関係

移民がネットワークを広げるのに好ましいアクセスポイントであり、これらとの関係があれば、性取引や移住のネットワークを超えてより多くの支援を求めることができる。市民団体が当事者コミュニティを中心に設立され、偏見をもつことなく危害軽減アプローチを採っている場合はとくにそう言える。これがない日本に住む移民が性取引以外から資源を得るには、運任せか自助努力でネットワークを広げるしかない。対してフランスでは、ネットワークを広げる機会が社会的に用意されている。

2) 第三者(特に管理者、仲介者、斡旋者、家族)との関係

この関係は両義的である。最悪の場合、移住セックスワーカー(以下、ワーカー)の身体的・精神的安全とエンパワメントの阻害要因となる。最善の場合は力になってくれる。「友人」との関係は、文脈によって意味合いが異なる。日本では、「友人」が移住や性取引を仲介することが珍しくない。そうした「友人」が出身国にいる場合、その関係はそれほど重要ではない利害関係である。一方、友人が受入国(都市)にいる場合、本研究ではエスニシティを同じくするワーカー間で見られたが、その関係はより重要で、物質的・精神的な支援を伴い、事実上友情で結ばれた関係となる。典型的な反人身取引の言説では斡旋人が暴力的な管理者であり得るとされる「ボーイフレンド」については、本研究はそう判断する根拠を見いだせなかった。これらの第三者はすべて移住の不可欠な要素であり、活用次第では、より安全な移住、詐欺的・強制的・暴力的・搾取的でない移住の促進に役立つと考えられた。

家族も重要である。移住や性取引への関与は出身国にいる家族が原因であったかもしれない。家族を支えるために仕送りをしなければならぬ例は珍しくない。日本では、当事者が日本人男性と結婚し配偶者資格で滞在していた場合、いわゆる義理の家族が物質的にも精神的にも重要であった。フランスでも日本でも、家族が威圧的・暴力的・搾取的であるとか、自分の立場を弱くしていると語る者はいなかった。むしろ彼女たちは、経済的に支えることも含めて、家族とのつながりを生活の糧としていた。こうした重要なつながりを、パレルモ議定書にある移民の脆弱性の源泉だとして否定しても、劣悪な条件下での移住や SW が阻止できるとは思われない。

3) コミュニティ関係

エスニックコミュニティが全体としてコミュニティ内部のワーカーを差別しようと、その中のワーカーたちは、多くの場合互いに支え合っている。もっとも、支援と搾取の境界線がはっきりしないこともある。フランスにおける極端な例では、ナイジェリア出身者の間で、経済的に必要なエスニック SW ネットワークが明らかに威圧的・搾取的なネットワークになることがあった。結びつきの強い閉じたコミュニティは、当事者がより良いネットワークを得ようとする際の障壁になりかねない。仲間同士の支援や学び合い、エンパワメントを重視したコミュニティアプローチによる危害軽減を促し、その上に部外者との信頼関係を構築することが重要であろう。一方やはりフランスでは、中国出身者の襟帯が強いことも目立ち、この場合はネットワークが開かれており、当事者同士の支援のみならず部外者から支援を得るつながりも得ている傾向があった。

4) 警察との関係

これも両義的な関係である。警察との関係を移住ワーカーは否定的に見ることが多いが、警察は支援者になり得る。警察がワーカーに対して懲罰的な人身取引・売春防止策を止め、危害軽減とコミュニティアプローチを組み合わせた倫理的アプローチを顕著にすれば、詐欺や暴力や強制や搾取からワーカーを守り得る。

5) 在留資格

当事者の法的立場はもちろん、独立性とネットワークの多様性にも影響する。多様なネットワークは豊かな社会資源を内包し、安全性を高める。在留資格が合法で安定し、在留期間が長くなるほどネットワークは豊かになる。しかし、定住者資格が得られ、性取引を超えてネットワークが広がるかどうかは、受入国側の法制度はもちろん、これに加えて、ネットワーク（労働市場や義理の家族、保健・福祉サービスなど）とつながる機会があるかどうかによるところが大きい。

6) トランスジェンダーであること

移住ワーカーは、この点でシスジェンダー当事者より不利な立場におかれている。彼女たちは、ホスト国で結婚して定住する機会が少なく、義理家族や SW 以外の仕事関係につながる機会も限られる。医療ビザを取得できるフランスでも、トランスジェンダーの人々がネットワークを広げられるかどうかは、これを更新して安定的に滞在できるかどうかによる。そして、不利な立場は、エスニシティを同じくするトランス女性のワーカーに強い連帯ネットワークを形成させるが、閉鎖的な強い襟帯は、ここでも性取引の外につながる際の障壁となり得る。

結 論

本研究の対象者らはみな、それぞれ上記 6 項目の作用に応じて多かれ少なかれ脆弱な立場に置かれ、分断されている。そして、過酷な詐欺や強制や搾取は、厳しい規制を盾に脅したり複雑な規制にうまく対処したりできる者が、犯罪化され、市民社会との接触が難しい人の脆弱性を利用することによって起きている。ここにこそ議定書が定義する人身取引が成立しているのである。そこで、警察が移住ワーカーの権利を擁護するためではなく、彼女らを取り締まるために法律を行使するなら、警察との関係は否定的なものになる。彼女らは、在留資格をネットワークの拡大、つまり安全・安心のための資源の確保に使っているが、これは国の入国管理や売春規制とつねに対立する。

性取引に携わる移民の状況をより安全なものにするには、SW に対して部外者が危害軽減とコミュニティアプローチからなる倫理的アプローチを採用すること、そのためにも、国家が移民による売春を非犯罪化することが進むべき方向であると思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Eri Maekawa and Hajime Murao	4. 巻 Vol.13, No.7
2. 論文標題 Interpreting BERT Attention Trained for Japanese Difficulty Classification from the Viewpoint of Grammatical Features	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ICIC Express Letters Part B: Applications	6. 最初と最後の頁 697-703
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24507/icicelb.13.07.697	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 原めぐみ	4. 巻 23
2. 論文標題 移民の言語：セーフティネットとしての言語 大阪ミナミ：コロナ禍が浮き彫りにする「ことばの壁」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ことばと社会：多言語社会研究	6. 最初と最後の頁 269-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 原めぐみ	4. 巻 23
2. 論文標題 ヤングケアラーになる移民の子どもたち：大阪・ミナミのケーススタディ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 多民族社会における宗教と文化	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20641/00000584	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 菊地夏野	4. 巻 10月号
2. 論文標題 慰安婦」を忘却させる植民地主義とポストフェミニズム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地夏野	4. 巻 3月臨時増刊号
2. 論文標題 可視化するフェミニズムと見えない絶望 ポストフェミニズムにおける(再)節合に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 118-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地夏野	4. 巻 冬号
2. 論文標題 憧れと絶望に世界を引き裂くポストフェミニズム 「リーン・イン」、女性活躍、「さよならミニスカート」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田文学	6. 最初と最後の頁 4-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ya-Han Chuang and Helene Le Bail	4. 巻
2. 論文標題 How marginality leads to inclusion: insights from mobilizations of Chinese female migrants in Paris	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ethnic and Racial Studies	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01419870.2019.1572907	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 青山薫	4. 巻 特集：新移民時代
2. 論文標題 移住セックスワーカー」に対する暴力を防ぐには	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山薫	4. 巻 3
2. 論文標題 UK質的データアーカイブの設立経緯とその後	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館生存学研究	6. 最初と最後の頁 97-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山薫	4. 巻 87
2. 論文標題 なぜ、ラディカル・フェミニズムは分かってくれないのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ピープルズ・プラン	6. 最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山薫、エレン・ルバイ	4. 巻 295
2. 論文標題 国境を越えるセックスワークと人身取引 聞き取りとソシオグラムを通して (仮: 出版決定)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊地夏野	4. 巻 7
2. 論文標題 AV新法をめぐるフェミニズムの混乱	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 シモーヌ	6. 最初と最後の頁 58-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 15件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 青山 薫
2. 発表標題 氾濫する性風俗言説・表象をどう読み解くか
3. 学会等名 学習院大学 身体表象文化学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Sexual Minority Politics in Japan (in the World)
3. 学会等名 IGS Seminar, Institute for Gender Studies, Ochanomizu University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Research on Migrant Sex Work: Examples of Network Analysis from France and Japan
3. 学会等名 The 6th MMC Regional Conference, From new normal to the next normal: Migration research and policy in the changing world（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Roundtable 3: Post COVID-19 Era and the Emerging Issues in Migration Research and Policies
3. 学会等名 The 6th MMC Regional Conference, From new normal to the next normal: Migration research and policy in the changing world（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Reading of an Opinion Paper to the Lawsuite on Sustainability Subsidy
3. 学会等名 Faculty of Asian and Middle Eastern Studies, University of Cambridge (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Sex work and Migration: Research on Narratives and Networks from Thailand, The Netherlands, Japan and France
3. 学会等名 Colloque, Science PO (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 LE BAIL, Helene
2. 発表標題 Chinese migrant sex workers in France and the Contrasting Definitions of Safety and Violence
3. 学会等名 Universite de Seoul and Ifrae-Inalco international workshop in Paris (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 LE BAIL, Helene
2. 発表標題 Contested definitions of diversity and violence: Chinese migrant sex workers' mobilization in Paris
3. 学会等名 CERC Migration Working Group - Scholars of Excellence Edition: "Migration, Governance and Gender", Toronto Metropolitan University, Toronto (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 LE BAIL, Helene
2. 発表標題 Reshuffling the Dichotomous Notion of ' Trafficking and Migrant Sex Work ' as Good or Bad: from Empirical Ev-idences in France and Spain
3. 学会等名 University of Naples Orientale - Kobe University International seminar " Construct-ing Multicultural Societies Premised on Continuous International Migration ", Palazzo Du Mesnil, Naples (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jiawen Xu and Hajime Murao
2. 発表標題 A study on analyzing differences between native Japanese speakers and non-native speakers based on facial muscle EMG signals
3. 学会等名 The 16th Int. Conf. on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaoru Aoyama
2. 発表標題 Sex Workers and the Right Approach: the International Legal Framework
3. 学会等名 Intersections: Global Dialogue on Gender, Development & Social Justice, Gender and Development Studies Program, Asian Institute of Technology, Thailand (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kawata, Megumi and Murao, Hajime
2. 発表標題 Estimating Desk Work Status from Video Stream using a Deep Neural Network
3. 学会等名 The 14th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Murao, Hajime
2. 発表標題 A Study on Finding Differences in Movement of Expert and Novice Darts Players by using a Kinect-like 3D Image Sensor
3. 学会等名 The 14th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷口哲朗、村尾元
2. 発表標題 VAEを用いたテキストからの画像自動生成
3. 学会等名 システム制御情報学会研究発表講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru
2. 発表標題 Same-sex Marriage/Partnership at the backdrop of Post-modern Japanese Family
3. 学会等名 University of Tennessy Summer School Program in Japan (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山薫
2. 発表標題 性と合意について
3. 学会等名 京都精華大学・社会連携センター「芸術実践と人権」講座 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山薫
2. 発表標題 ジェンダーとセクシュアリティ
3. 学会等名 ベトナム国家社会大学ハノイ校日本文化学科招聘講義（4日間）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山薫
2. 発表標題 なぜラディカルフェミニズムは分かってくれないのか...
3. 学会等名 ビーブルズ・プラン研究所 シンポジウム「私たちは、どのような分岐点に立っているのか」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊地夏野
2. 発表標題 フェミニスト・カルチュラル・スタディーズとポストフェミニズムの破断点
3. 学会等名 カルチュラル・スタディーズ学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 Andrea Germer, UlrikeWohr, Kaoru Aoyama, et al.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 MHM Limited	5. 総ページ数 -
3. 書名 Handbook of Japanese Feminisms (forthcoming)	

1. 著者名 日下 涉, 伊賀 司, 青山 薫, 田村 慶子, 今村 真央, 坂川直也, 岡本 正明, 宮脇 聡史, 日向 伸介, 小田なら, 大村 優介, 小島 敬裕, 新ヶ江章友, 初鹿野 直美, 北村 由美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 392
3. 書名 東南アジアと「LGBT」の政治 性的少数者をめぐって何が争われているのか	

1. 著者名 伊藤 泰郎, 崔 博憲, 四方 久寛, 飯田 悠哉, 北川 由紀彦, 川越 道子, 中田 英樹, 吉田 舞, 坂梨 健太, 青山 薫, 西澤 晃彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 448
3. 書名 日本で働く 外国人労働者の視点から	

1. 著者名 鈴木江理子, 山野上麻衣, 巢内尚子, 高向有理, 田中雅子, 呉泰成, 明戸隆浩, 佐藤美央, 鄭安君, 宋恵媛, 金昌浩, 南川文里, 旗手明, 田中宝紀, 大川昭博, 土井佳彦, 原めぐみ, 山岸素子, 坂本啓太, 石川えり, 崔洙連, 加藤真, 近藤敦, 是川夕	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 アンダーコロナの移民たち	

1. 著者名 高谷幸, 榎井縁, 安岡健一, 原めぐみ, 高田一宏, 朴洋幸, 丹羽雅雄, 金光敏, 稲葉奈々子, 岩城あすか, 小野潤子, ほか5人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 298
3. 書名 多文化共生の実験室：大阪から考える	

1. 著者名 菊地夏野、堀江有里、飯野由里子、赤枝香奈子、釜野さおり、志田哲之、清水晶子、長山智香子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 252
3. 書名 クィア・スタディーズをひらく2：結婚、家族、労働	

1. 著者名 宇都宮京子、西澤晃彦、青山薫、浅野智彦、荒川俊彦、伊藤美登里、小川祐喜子、奥村隆、景井充、ほか 28名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 220
3. 書名 よくわかる社会学 第3版	

1. 著者名 菊地夏野・堀江有里・飯野由里子ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 274
3. 書名 クィア・スタディーズをひらく1 アイデンティティ、コミュニティ、スペース	

1. 著者名 Dewey, Susan, Crowhurst, Isabel, Izugbara, Chimaraoke, Kaoru Aoyama, et.al	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 620
3. 書名 Routledge International Handbook of Sex Industry Research	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	LEBAIL Helene (Le Bail Helene) (30817622)	明治学院大学・国際平和研究所・研究員 (32683)	
研究分担者	村尾 元 (Murao Hajime) (70273761)	神戸大学・国際文化学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	原 めぐみ (Hara Megumi) (90782574)	和歌山工業高等専門学校・総合教育科・准教授 (54701)	
研究分担者	菊地 夏野 (Kikuchi Natsuno) (00381898)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授 (23903)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ブンブイン スリーポーン (Punpuing Sureeporn)	マヒドン大学	
研究協力者	ダラウッティマプラコーン ニホン (Darawuttimaprakorn Niphon)	マヒドン大学	
研究協力者	スリヴィロジャナ ヌチャリー (Srivirojana Nucharee)	マヒドン大学	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	フェンサムラン ドゥシタ (Phuengsamran Dusita)	マヒドン大学	
研究協力者	ケイズ リッサ・K (Cases Rizza K)	フィリピン大学	
研究協力者	エンシナス=フランコ ジーン・S (Encinas-Franco Jean S)	フィリピン大学	
研究協力者	ネンセル ロレイン・S (Nencel Lorraine S)	アムステルダム自由大学	
研究協力者	ジャンセン マリー=ルイース (Janssen Marie-Louise)	アムステルダム大学	
研究協力者	ブイジテンドープ カーメン (Buijtendorp Carmen)	アムステルダム自由大学	
研究協力者	猿ヶ沢 かなえ (Sarugasawa Kanae)	エクス=マルセイユ大学	
研究協力者	大野 聖良 (Ono Sera)	お茶ノ水女子大学	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	熊田 陽子 (Kumada Yoko)	国際ファッション専門職大学	
研究協力者	中村 文子 (Nakamura Ayako)	山形大学	
研究協力者	陳 美華 (Chen Mei-hua)	台湾国立中山大学	
研究協力者	カンパナ パオロ (Campana Paolo)	ケンブリッジ大学	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 The 6th MMC Regional Conference, From new normal to the next normal: Migration research and policy in the changing world, Mahidol University, Thailand	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Sex work and Migration: Research on Narratives and Networks, Colloque, Science PO, Paris, France	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Research proceedings in Asia and in-puts from the Japan's sex industry at Kobe University	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
タイ	マヒドン大学			
フランス	パリ政治学院			
英国	ケンブリッジ大学			
オランダ	アムステルダム自由大学	アムステルダム大学		

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	ナポリ東洋大学			
台湾	国立中山大学			
フィリピン	フィリピン大学			
タイ	Mahidol University			